



わかむぎ

No.7 令和5年10月20日 発行/古屋正樹



「押中魂」の新たな継承者たち
これからの活躍が楽しみでなりません

先輩に続け
先輩に続け!

次は任せろ
次は任せろ!

引き継がれる伝統！ 中巨摩新人大会!!

3年生からバトンが引き継がれ、2年生中心の新体制がスタートしました。押中の新たな伝統の幕開けです。

この中巨摩新人大会は、1・2年生にとっての初陣、初の公式戦となりました。壮行会では、各部とも決意・目標を掲げ、少々緊張した面持ちの中、それぞれが意気込みを語ってくれました。中には、「人としての成長」を掲げた部もあり、高い志を感じました。

大会初日は、やはり緊張のスタート。皆、硬い表情に見えました。しかし、時間とともに、また、プレーとともにいつものハツラツとした姿に戻ってきました。とはいえ、初陣故のプレッシャーに、思うようにプレーできないもどかしさを感じたことも確かでしょう。終わった後の生徒や顧問の表情を見ると、成果は勿論、それ以上の課題（収穫）を感じていたように思います。新チームとしての活動は、まだ始まったばかりです。きっと、**今後の練習が鍵を握る**のだと思います。今冬の練習にどう取り組むか、それをどう生かすか、それが大事だと思います。来春、心も体も技も一回り大きくなった各部の成長を期待しています。

押中生の勇姿



ふるさとふれあい祭りへの参画



ふれあい祭りが5年ぶりに開催されました。このお祭りには、押中生が多数参加（参画）しています。

オープニングを飾る吹奏楽部の軽快な演奏、そして、地域おこしのために押中生が立ち上げた「ダンス・フェス」、更には、ボランティアとして、「高生連の出店」「神輿の担ぎ手」「盲導犬普及の呼びかけ」と、総勢100名ほどの押中生が、このお祭りに関わっています。今後も、押中生の元気を町に吹きこみ、**地域に貢献できる学校**でありたいと思っています。



～学校創立記念日～

11月1日は、76回目の学校創立記念日です。本校は昭和22年、現在の押原小学校の校舎がある場所に全校生徒267人で開校しました（白黒写真参照）。当時は木造校舎で、押原小学校と押原中学校が同じ敷地内にありました。お祖父ちゃんお祖母ちゃん世代には懐かしい話かと思います。

時を経て昭和51年に現在の地に移転し、旧校舎より新校舎へ移った日が11月1日ということので、その日を記念し「学校創立記念日」となりました。

校長室にはかつての男子生徒たちが被った「学生帽」が飾られています。今の生徒には想像もつかない代物です。この学生帽（写真右）は、何を隠そう「私」が中学生時代に被っていたもので、数年前に寄贈したものです。再会できたことに感謝！でも、時代を感じます…。



小中連携の推進



陸上部の生徒が小学校を訪問し、陸上の指導を含めた交流を行いました。これは、小中連携の一環で行われた企画です。実はコロナ禍以前にも行われていましたが、この度数年ぶりの「復活」となりました。

陸上部生徒は、母校である小学校を訪問し、成長した姿を披露するとともに、小学6年生に対して、親切丁寧に、そして、ポイントを押しえたアドバイスをしていました。とても微笑ましく、頼もしい姿でした。小学生にとっても中学生にとっても、とても貴重な交流でした。

